

I 研究主題 「学ぶ意欲をもち、主体的・協働的に学習する生徒の育成」(1年次)
～アクティブ・ラーニングによる授業の質的改善を通して～

II 主題設定の理由

平成27年8月、中央教育審議会教育課程企画特別部会は、次期学習指導要領改訂の方向性を明らかにした。それによれば、これからの社会では、子供が「何を知っているか」だけではなく、「知っていること・できることをどう使うか」や「知っていることを使って、どのように社会や世界と関わり、よりよい人生を送るか」が重要であり、次期学習指導要領では、こうした資質・能力の確実な育成を図るため、子供が主体的・協働的に学ぶアクティブ・ラーニングへの質的転換を図ることが必要であるとされている。

本校では、昨年度まで話し合い活動などの言語活動や学び合い活動を設定し、思考力・判断力・表現力を高めていくとともに、ICTと言語活動を効果的に結びつけ、自ら表現できる生徒の育成を図ってきた。こうした取組により、ある程度の成果は見られるようになってきた。

しかし、昨年4月に実施された全国・県学習状況調査の結果を見ると、国語、数学は全学年で「おおむね達成」を上回っていたが、3年生の国語以外は「十分達成」には届いていなかった。特に、2年生国語の「話す聞く」、1、3年生数学の「考え方」で落ち込みが見られた。また、昨年の12月調査の結果を見ると、1、2年生ともに、どの教科も「おおむね達成」を上回っていたが、英語以外は「十分達成」には届いていなかった。観点で見ると、特に思考力を問う問題に課題があった。このように、学習状況調査等の結果からは、思考力・判断力・表現力の育成まではつながっておらず、基礎学力の定着にも課題があることがわかった。

これまでの授業は、知識・技能の習得のみに重きを置き、説明中心の一斉授業になる傾向があった。しかし、これからの授業では、授業の中に思考・判断・表現するなどの生徒が主体的・協働的に学習する場面を設定し、生徒の学習意欲が継続的に喚起される必要がある。

そこで、本校では、今求められているアクティブ・ラーニングによる授業の質的改善を図ることで、生徒の学ぶ意欲や思考力・判断力・表現力を高める研究に取り組むことにした。アクティブ・ラーニングの指導方法は、生徒の発達や教科の特性、単元や学習場面等によって様々に存在する多様なものであるため、見た目の指導方法のみを改善するのではなく、むしろ、生徒の思考がアクティブに活性化し、一人一人の生徒が能動的に学習に取り組み、期待する資質・能力が育成されているかどうかを確かに検証していくことが大切であると言われている。

そのため、本校ではこれまで取り組んできた言語活動や学び合い活動などの教育実践はそのまま継続しながら、さらに生徒の思考がアクティブになる効果的な指導方法の在り方を探ることにした。そして、アクティブ・ラーニングによる授業の質的改善を図ることで、生徒の学ぶ意欲や思考力・判断力・表現力を高めることにした。また、生徒の一人一人の進路を実現するため、学習の定着を図る指導の工夫や徹底、学習習慣・家庭学習の改善を行い、生徒の基礎学力の向上を図りたいと考え、本主題を設定した。

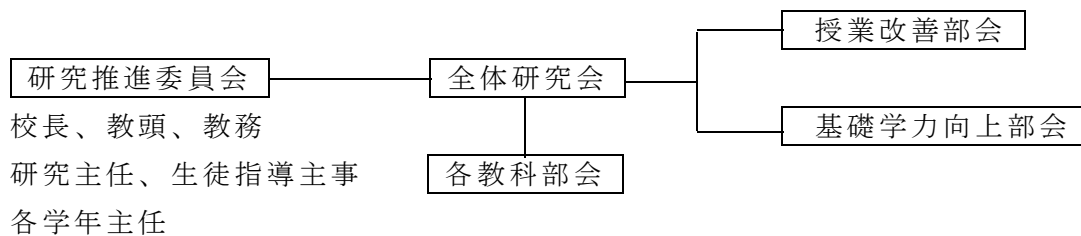
Ⅲ 研究の目標

- (1) 生徒が主体的・協働的に学習するアクティブ・ラーニングによる効果的な指導方法の在り方を研究する。アクティブ・ラーニングによる授業の質的改善を図ることで、生徒の学ぶ意欲や思考力・判断力・表現力を高める。(授業改善部会)
- (2) 学習の定着を図る指導の工夫や徹底を図り、学習習慣・家庭学習の改善を行い、生徒の進路実現に向けた基礎学力の向上を図る。(基礎学力向上部会)

Ⅳ 研究の内容

- (1) アクティブ・ラーニングの理論研究
- (2) 各教科における主体的・協働的に学習するための効果的な指導方法や学習の定着を図る指導方法の研究
- (3) 研究授業・授業研究会、学習状況調査等による指導方法や指導実践の検証
- (4) 研究成果をもとにした授業の質的改善と基礎学力の向上

Ⅴ 研究の組織



Ⅵ 研究計画

1	5月	校内研究計画、各教科の年間指導計画作成
2	6月	全体研究会・部会① ※外部講師招聘 各教科部会 (各教科の実践計画作成) 全国・県学習状況調査の分析と活用
3	7月	教科等における取組や実践
4	8月	全体研究会・部会② ※外部講師招聘 各教科部会 (各教科の実践計画の見直し)
5	9月	授業の相互参観
6	10月	研究授業・授業研究会 ※外部講師招聘
7	11月	
8	12月	12月調査
9	1月	授業の相互参観 12月調査の分析と活用
10	2月	全体研究会・部会③ 各教科部会 (研究のまとめ) 研究のまとめと成果の検証